

羅針盤
Plus I
Plus II

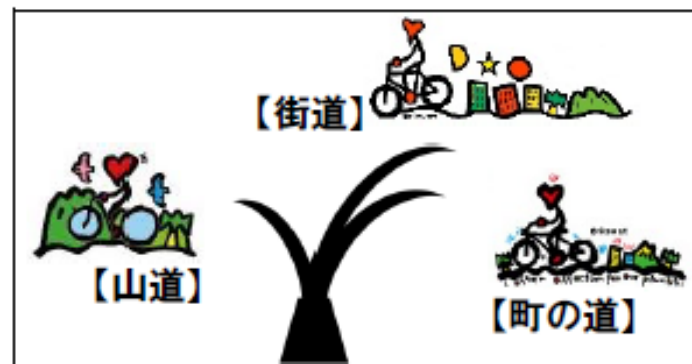
1992年、「困難との遭遇」と謳われた“コルシカバイク”への参加が、
『ツーリングコンペティション』との出会いであり、日本でも開催可能な【とれとれバイク】のヒントにもなった。

さらに第一次サイクリングブームを牽引した故今井彬彦ニューサイクリング編集長のアドバイスから始まった【ルート・エヌ】も、
レースとツーリングの両方の性格を持つ、日本では馴染みの薄いそのジャンルに他なりません。

それらは、MTBラリーレイドやロングライドファストラント、車種やフィールドが異なるものの、
【走り出したら自己責任】や【時には参加者、時には主催者】という考えのもと、
グループで遊ぶ中級者向けの自転車ソフトとして、独自のファンを増やしている。

2003年、「世界最高峰のサイクリストの祭典」と称され4年に1度の“パリ～prest～パリ”に日本からの初参加を果たし、
このジャンルが、JCAにもJCFにも属することなく自転車文化の一翼を担う可能性を感じつつも、
日本と欧米の自転車走行環境や自転車市民権の違いに戸惑いを抱いていたのも事実で、
転遊研の活動に舵を切る決断をし、その結果、年齢性別車種不問で楽しめる【THT26】を探り当てた。

三種のツーリングコンペティションで日本の“道”を考える！／チョイスの提案？



警察も追認する運頼みルールの【THT26】は、主催者の大小を選ばず、等身大の運営が可能であり、さらに、移動手段も自由自在なため、ツールド下関やシマノバイカーズにも取り入れられ、広島市南区や福岡県福津市では定期開催され、そして、いわくに研究会では、ドライブバージョンや公共交通バージョンも助成金を受けて試されており、ザッピング企画として日常の移動手段の検証も可能とし、守備範囲の「町の道」での立場を固めつつあります。

一方、【とれとれバイク】や【ルート・エヌ】は、それぞれ「山道」や「街道」を守備範囲としていますが、微妙な立場で推移しているのは否めません。

つまり、自転車は個人でも楽しめますが、組織で遊び、「街道」「山道」「町の道」を網羅する、『三種のツアリングコンペティション』にて日本の“道”を語ることが、自転車走行環境整備のための自転車市民権獲得に直結すると考えます。

THT26

検索

<http://www.bike-joy.com/THT26.htm>

★ハード:エコ系自転車ブーム

ハード

★ソフト:インバウンド企画

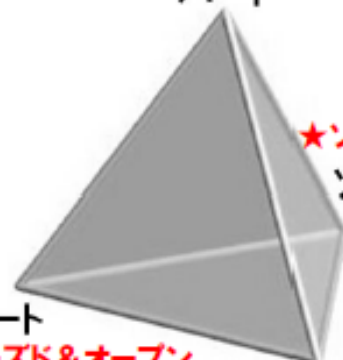
ソフト

★ハード:クロスド&オープン

ハード

インフラ

★インフラ:自転車活用推進法



【テトラバランス】

自転車環境正四面体

自転車多様性を、ハード:自転車(作る、売る、使う、メンテナンス)、ソフト:使い方(楽しむ、仕掛ける、ネットワーク、日常と余暇)、ハード:人(テクニック、マナー、ルール、スクール)、インフラ:環境(道路、セキュリティと保険、イベント、サイクリングクラブ)の4つに凝縮。

日本の実情に合った自転車遊びを模索する転遊研の実験企画から生まれた【THT26】は、わらしべ効果と観光メンテナンス効果を有しています。

それは、地域資源再発見には絶大の効果を発揮し、個人、行政、NPO、そしてコンサルタントなど、垣根を超えた結びつきを生み、

さらに「ハード」「ソフト」「ハード」「インフラ」の4要素から成る「テトラバランス」の発見にもつながりました。

そのテトラバランスは、四大話しの活用が可能で、2017年末の実情を★印に無理やり当てはめてみました。

しかしながら【THT26】にも弱点はあります。思った以上に仕込み作業が特殊だということです。

この羅針盤はその特殊作業が出来るS級スタッフを育成するための呼び掛けです!

羅針盤
Plus I
Plus II



この「チョイスの提案？」のP①とP②は、それぞれ「ツーリングコンペティションとの出会い」と、「THT26の特徴の説明」です。そしてこのP③にある「企画の再々提案の考え方」は、転遊研といわ研の関係を、ドライブと自転車のザッピング企画として語るものです。
掲載ページ ⇒ <http://bikejoy.web.fc2.com/ICD/MoC/Moc18p.htm>

[ザッピング]は、バイクトーキョー2015サミットで、デンマーク大使館公使参事官/ミケル・フェルタ氏から聞いた言葉で、交通手段のベストミックスを表現したものです。詳しくは下記URLにアクセスして下さい。

https://bikejoy2.web.fc2.com/JCP/Think_Cycling.files/BikeTokyo2015SummitZapping.pdf

自転車走行環境整備のための自転車市民権獲得には、サイクリストライセンスが欠かせないと直感し、その外堀を埋めるために「転遊研」を発想し実験企画を進めてきました。そしてその過程で派生的に「いわくに研究会」を立ち上げることになりましたが、その顧問とも、サイクリストライセンスの必要性を共有し、メイン活動として「ゲーム旅」の可能性を追求している最中で、辿り着いたのが「毛利チャレンジ」です。

毛利チャレンジ企画原案 ⇒ <http://bikejoy.web.fc2.com/JCP/THT26/THT26c.htm>

転遊研/20171218



そして以下のP④からP⑨は展開案の表紙案で、P⑩は羅針盤の複数の着地点候補です。それをチョイスするのはS級先達です。

毛利チャレンジ2018

ザッピング型ゲーム旅で温故知新！岩国かるたドライブ明治維新150周年応援企画！

殿、徳川追討の件、今年はいかがいたしましたでしょうか？
いや、その件は来年に延期するでしょう！

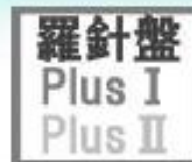
萩藩年頭の挨拶や、関ヶ原後の改易の危機を救った吉川広家の逸話をヒントに、岩国発の明治維新150周年応援企画として、ザッピング型ゲーム旅「毛利チャレンジ」を提案しています。

防長かるたドライブ2018／温故知新タイムハンター編
「四境の役・大鳥口と芸州口」「維新発祥の地・長府」他

自転車さんぽ◆毛利両川トーナメント／萌黄の陣・紅葉の陣
岐阜県／関ヶ原(オープニング)～毛利両川ゆかりの地～
薩長土肥～奇兵隊の奇跡～吉川広家公終焉の地(ファイナル)

※ザッピング型ゲーム旅とTHT26とツーリングコンペティション

主体：いわくに研究会／転遊研



Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS.Plus1.Plus2

THT26の弱点は長所と表裏一体です。

主催者の大小を選ばない等身大の企画とは、一般道を使った道路交通法を遵守した企画のため、それなりの規模になってしまい、派手な展開が苦手となります。また、歩くより広範に、車より丁寧にして、自転車の良さを強調していますが、いわくに研究会でドライブバージョンに応用したところ、自転車の弱点を再認識することに。

まず安全性と天候、次に現地までの移動、そしてグループ参加や買い物ゲームなどです。

それでも地域資源再発見には絶大の効果を持っており、それぞれの良さを見極めながら、知名度アップと、協力者確保を進めたいと思います。

毛利チャレンジは、岩国発の明治維新150周年応援企画として、ドライブバージョンの県内展開と、自転車バージョンの全国展開で、次のステージ「NEXT150(仮称)」を目指すものです。

サイクリングフィールド山口

シーサイド、リバーサイド、マウンテンフィールド、山口の“道”を走り尽くそう！

瀬戸内海、日本海、そして響灘と三方を海に囲まれた山口県。
錦川、佐波川、樺野川、木屋川、阿武川、長くなければ短くもない。
シーサイドコースもリバーサイドコースも充実している上に、
歴史と自然と市町の点在具合が自転車旅にマッチしている。

さらに、山陽道、山陰道、萩往還、北浦街道、山代街道と
古の道も縦横にあり、山道の可能性も残している！

「街道」・・・ナショナルブルー山口

「山道」・・・やましろMTBツアーズ

「町の道」・・・自転車さんぽ山口セレクション

正に自転車のための道路整備先進県の可能性を秘めています。

主体：ショップ＋ユーザー＋エリア＋関連団体／いわ研・転遊研

羅針盤
Plus I
Plus II

Cyclist_Licence_And_Tourism_Maintenance_COMPASS_Plus1_Plus2

「サイクル県やまぐち」の後継企画という考え方もありますが、山口県の特徴を活かした、地域貢献型サイクリングクラブの実験企画です。

特徴その1) 街と里のバランスが良い。さらにプロショップの位置関係も微妙に良い。

特徴その2) 自然と歴史に恵まれている。それもサイクリングに程よい距離に点在している。

特徴その3) 道路整備が行き届いている。しかし、自動車優先思想は他県と変わらず、走行環境整備も同じく課題。

特徴その4) サイクル県やまぐちに寄せる期待。とは言え後発企画であり、セキュリティや市民権については県単独では無理。

ショップのメリット・デメリットを超えた連携を前提に、「街道」「山道」「町の道」でフィールドを開拓し、独自の基準で隣接県も含めたファンを獲得し、一定のマーケットを醸成する。
但しそれには「自転車遊びの機会均等」や「春需でソフトを売ろう！」のキーワードを理解したS級スタッフの育成が最重要課題！